経営短信 Management brief note

君は舟なり、庶人は水

水は舟を載せ、また覆す

荀子に曰く、「君は舟なり、庶人は水なり。水はすなわち舟を載せ、水はすなわち舟を覆す」とある。

君主は舟で民は水、浮くも沈むも水次第。従って、心ある君主たる者は…その地位の安定を望み、すぐれた施政をするには、まず、人民を愛し、民富を優先しなければならない。

君主を、「社長、部長、課長」と置き換えても、通用する言葉ではないでしょうか。

権威と権限は全く異質

上に立う人には、なんらかの権限があるように思う。権限とは、その立場に相応しい役割を遂行するために与えられた職責であり、決して、威張るための道具ではない。むしろ、与えられた職質の重大さを自覚し、謙虚であらねばならない。権威は、その人の内面から出てくる一つの品格であり、尊敬の対象となるものです。

権限の意義を間違って理解し、専横の限りを尽くす経営者や幹部社員が多いものですが、権威なき権限は腐敗する。

特たに、創業経営者には、どうしても「自分の会社」という強い意識があり、「社会のため」「社員大切」と口では言っても、果たして、日ごろの言動、態度が、そうなっているかどうか、自省が必要です。

ちょっとした言動、態度に敏感にそれが現れる。社員がお茶を運んでくれたとき、書類を作ってくれたとき、報告を受けたとき、社用車に乗るとき、このような様々な場面において、「ありがとう」「ご苦労さん」「お疲れさん」「いい資料だね」など、一言、かけてやることによって、どれだけ社員の心が晴れやかになることでしょうか。

社員が、経営者や管理者に近寄りがたいというのは、それだけで、組織風土が硬直化している証です。

威厳を保ちつつも、近寄りやすいというのは、上に立つ人にとって、大切な資質の一つです。

社員が、「今、社長の機嫌が悪いから」とか、「悪い報告をすると嫌な顔をされる」等、顔色を伺うようでは、すでに組織は動脈硬化現象になっている。

礼を尽くして

中国、唐王朝二代目皇帝・太宗の治世は、「貞観の治」とその善政が讃えられている。昔の聖人が、道理ある言葉を臣下から聴くたびに、恭しい態度で拝聴したことを教訓として、太宗自らも、広く胸襟を開いて、臣下の諫言を受け入れたという。

事業は人なり、これはいつの時代も変わらない。会社は経営者の人格の鏡です。部門は部長の人格の鏡です。「社員にこうあって欲しい」と期待するならば、経営者や幹部社員が、まず鏡にならなければならない。経営者や幹部から礼を尽くされてこそ、またその部下も礼を尽くして人に接していく。それが波紋となって、全体に礼を重んじる風土が生まれて来る。水が荒れ狂わないように配慮しなければならない。

水に従いつつ、水を制す

しかし、いつも水に載るだけでいいとは言えない。水自体が暴れることもある。水を制することも、大切なことです。古来、施政者は治水を大事な事業とした。水の流れを制御し、澱みや汚れを排し、清潔さを保ち、水の恵みを広く人々に与え、生活を潤した。

会社における治水とは、社員が働きやすい環境をつくり、生きがいや働き甲斐のある仕事に取り組み、自己実現ができるようにしてやることです。水を汚染したり、不潔にしたり、腐らせては成らない。水を無駄遣いしてはならない。

上田勝講師による経営幹部研修会のお知らせ

- 第1回　2006年4月20日(木)　10:00～17:00
- 第2回　2006年5月18日(木)　10:00～17:00
- 第3回　2006年6月15日(木)　10:00～17:00

会　場：大阪産業創造館(大阪市中央区本町1-4-5)
受講料：50,000円(3回通し)　※部分受講は1回20,000円
お問合せ先：テクノ経営総合研究所　開発本部(担当：能勢)

テクノ経営総合研究所　TECコンサルタント
上田　勝　うえだ　まさる
松下電器出身、営業本部および本社経営監査部等を経て、松下流通研究所、販売研究所　取締役所長を歴任
NPO兵庫経営塾　副理事長
著書『すべての仕事に商いの心を』(碧天舎)「マーケティング理論の基本は商家の家訓の中にある」「部下の心をつかむ正しいリーダーシップのあり方」(『ダイヤモンド・セールスマネジャー』に連載)